

ステンレス鋼板の表面性状に関する 定量的評価方法

支援の背景

表面にランダムな節目のあるステンレス鋼板は、重厚感があるため、装置の外板などに使われていますが、通常、そのランダムな節目は電動サンダーを用いた手作業で施されています。

(株)アコールでは、節目加工の効率化を図るため、作業の自動化に取り組みましたが、現状では目視で行っている表面性状の評価をいかに定量化するかが課題となりました。

支援内容

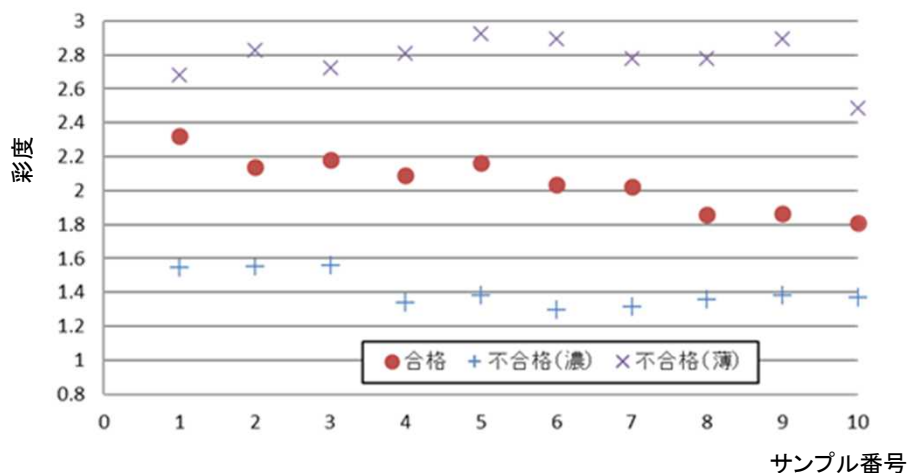
節目加工で生じる鋼板表面の見た目の色の変化を、色彩色差計により定量的に測定する手法を提案しました。



色彩色差計による測定

支援の成果

節目加工を適切に行ったステンレス表面の色は、彩度が1.8から2.4の範囲内にあり、且つ見本となる色との色差が1.5以下であることが分かりました。この結果を用いて、節目加工後の表面性状に関する定量的な評価指標を定めることができました。



彩度の測定結果例